

「No Music No Life」

日本ライフライン株式会社 代表取締役社長
鈴木 啓介



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく新連載がスタートします。第1回は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に際し、いち早く東京フィルにディスプレイマスク10,000枚をご寄付いただいた東京フィルの法人賛助会員でもある日本ライフライン株式会社 代表取締役社長 鈴木啓介様よりご寄稿いただいたエッセイです。

ある時「No Music No Life」という言葉を耳にし、ふと自分を振り返りました。音楽とは無縁な生活で好きな音楽に浸る時間など、想像したこともありませんでした。7年ほど前の話です。

それでも80年代初頭に出張先のウィーンで、カラヤンのベルリンフィルを鑑賞したことや、カルロス・クライバーの東京でのオペラも経験していたので、素人ながらも本物の凄みや華麗さの記憶は残っていました。

そこで還暦を機に一念発起し「No Music No Life 体現作戦」を決心しました。とにかく数多くのコンサートに足を運び、生で質の良い音を身体に染み込ませようと、東京フィル・コンサートを口切に海外からの著名なコンサートには必ず出向いてきました。四楽章が終わっても指揮棒が止まったままの「凍りつくような静寂」に、鳥肌が立つような瞬間も体験出来ました。



東京フィル評議員も務める鈴木氏。音楽の話題になると笑みがこぼれ、お話にも熱が入ります

日本ライフライン株式会社様が毎年8月に開催している、従業員の皆様を招いての納涼祭。例年、東京フィルメンバーによる室内楽をお届けしています。2020年はオンライン配信で開催し、全国の社員様・ご家族含め数百名の皆様をご視聴くださったそうです



もう一つは、人が長年かけて培ってきたクラシック鑑賞の基礎知識を2年くらいで追いついてみようと思いましたが、大容量ウォークマン®を入手し、ダウンロードしたクラシックにまつわる電子書籍を読みあさりながら、有名とされる曲を次々と聴きこんでいきました。現在私のウォークマン®には100人くらいの作曲家作品が、楽章で数えると2,300曲くらい手作業で分類されています。作曲家の歴史的時代背景を勉強し想像しながらの作業は楽しいものでした。結果的に1750年くらいから約200年間の近代ヨーロッパの歴史探訪も叶いました。これでどこに居ようと、その時の気分に合わせて選曲し、「一人コンサート」を楽しめるようになったわけです。特に出張中の機上は、極上の時間となりました。

東京フィルのコンサートは私のクラシック鑑賞のベースになっています。さらに社員家族を招いての納涼祭には小編成の室内楽演奏を毎年お願いしています。大声で騒いでいた子どもたちが急に静まり返り、固唾を呑んで耳を傾ける姿には毎回驚かされます。やはり本物の音は誰の心にも届くし響くし、そして豊かにしてくれると、つくづく実感しています。

鈴木啓介(すずき・けいすけ)

1977年明治大学経営学部卒業。1977年医療機器輸入販売のスタートアップ企業へ入社。1981年日本ライフライン株式会社創業 Co-Founder。2005年代表取締役社長(現任)。平成29年より(公財)東京フィルハーモニー交響楽団評議員。

日本ライフライン株式会社様は1981年創業。「最新最適な医療機器を通じて健康社会の実現に貢献する」ことを経営理念とし、おもに心臓・血管の疾患の治療に関わる医療機器の輸入・製造および販売を行っています。URL: <https://www.jll.co.jp/>